

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成24年2月23日(2012.2.23)

【公表番号】特表2009-534485(P2009-534485A)

【公表日】平成21年9月24日(2009.9.24)

【年通号数】公開・登録公報2009-038

【出願番号】特願2009-505804(P2009-505804)

【国際特許分類】

C 08 L 53/02 (2006.01)

C 08 L 23/00 (2006.01)

C 08 L 91/00 (2006.01)

【F I】

C 08 L 53/02

C 08 L 23/00

C 08 L 91/00

【誤訳訂正書】

【提出日】平成24年1月6日(2012.1.6)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

a) 水素化スチレン系ブロックコポリマー100重量部(前記水素化スチレン系ブロックコポリマーは、50重量%以上のモノビニル芳香族炭化水素単位を含むポリマーの少なくとも2つのブロック(A)および50重量%以上の共役ジエン単位を含むポリマーの少なくとも1つの選択的水素化ブロック(B)を含み、前記モノビニル芳香族炭化水素含有量は、ブロックコポリマーの全重量を基準にして10から50重量%の範囲にあり、最初に調製されるポリ(共役ジエン)ブロック(B)におけるビニル含有量は30から80%の範囲にあり、水素化スチレン系ブロックコポリマーは、前記ブロック(B)における残留オレフィン系不飽和に関して少なくとも30%の水素化の程度を有し、このブロックコポリマーは、1つのポリ(モノビニル芳香族炭化水素)ブロックおよび1つのポリ(共役ジエン)ブロックを有するジブロックコポリマーと40重量%までの量において混合されてもよい。)、

b) ポリオレフィン(II)20から150重量部、および

c) ゴム軟化剤(III)50から300重量部を含み、ならびに、

d) 充填剤を含まないか、充填剤0から300重量部を含み、

(i) 前記水素化スチレン系ブロックコポリマー(I)は、線状ブロックコポリマーに対しては250～700kg/molの範囲、放射状ブロックコポリマーに対しては250～1,000kg/molの範囲のピーク平均見掛け分子量(ASTM D-5296)を有すること、および

(ii) 前記ポリオレフィン(II)は、5から50g/10分の、190/2.16kgでのMFRを有する高密度ポリエチレン(IIa)、および1から40g/10分の、230/2.16kgでのMFRを有するポリプロピレン(IIb)(ASTM D1238)の、0.2から5の重量比(IIa)/(IIb)における混合物であること

を特徴とする、

ショア A が 30 から 90 のジュロメーター硬度 (ASTM D 2240) を有する熱可塑性エラストマー組成物。

【請求項 2】

射出成型および / または押し出しによる、請求項 1 に記載の熱可塑性エラストマー組成物から製造された成型品。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0037

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0037】

以下の実施例で使用されるブロックコポリマーは、250 kg / mol 未満のピーク MW を持つ Kraton G 1654、ならびに 250 kg / mol を超えるピーク MW を有する G 1651、G 1633 および MD 6944 であり、後者の 2 つは 300 kg / mol を超えるピーク MW を有する。HDPE 等級は HD 5226E および DMDA 8007 である。また、比較目的のために、2250 g / 10 分 (190 / 2.16 kg) のメルトイインデックスの報告値を持つ、Eastman 社のポリエチレン、Epolene (商標) C 10 が使用される。実施例で使用される PP 等級は、HP 501L、HA 722L および H 0500 である。Primol 352 および Drakeol 34 は油として使用された。充填剤としては、Durcal 5 または Vicron 25-1 が使用された。